

第 22 回鶴川駅南口街づくり検討会 会議要旨

日 時：2015 年 9 月 26 日（土）14：00～16：00

場 所：和光大学ポプリホール鶴川 3 階会議室

出席者：18 名（地権者：15 名／その他：3 名）

町田市：平本課長、望月担当課長、加藤係長、秋葉主事、船岡主事

パシフィックコンサルタンツ株式会社：桑山、村井、渡辺

【次第】

1. 東側エリア検討会
2. 西側エリア検討会
3. 鶴川駅南口の交通環境について
4. 住民意向調査（中間報告）
5. 駅利用者アンケート（中間報告）

【決定事項】

- ・今後事業を進めていくことについて、地権者の方々との合意を個別ヒアリングにより行うことを確認した。

【議事】

1. 資料説明

（1）東側エリア検討会の報告について（1～2P）

【内容について】

- ・エリア別第 1 回検討会は、事業手法の提案（土地区画整理事業）と街づくりの将来像を共有した。
- ・エリア別第 2 回検討会は、第 1 回検討会の意見を踏まえこちらで検討した結果、主要生活道路 1 の位置について 4 案を提示し、比較検討を行った。

【主要生活道路 1 の位置について】

- ・4 つの案があり、A 案：川沿いの河川管理用通路を活用する案、B 案：現道を活用する案、C 案：南口の中央部分に配置する案、D 案：線路沿いに配置する案である
- ・主要生活道路 1 の配置は、土地利用と道路・交通の 2 つの視点から評価を行った。（評価の順番 ○>△>▲）
- ・A 案は、マンションなど大街区の土地利用に適しているが、街区を更に区分する場合は、街区道路を入れることになるため減歩が大きくなり、評価は「△」となる。
- ・B 案は、現道を活用し、現況に近い土地利用を図ることができる。また、街区の区分が可能となり、評価は「○」となる。
- ・C 案は、中央付近に主要生活道路を配置することで、街区の区分が可能となる。また、他案と比較し、バランスの良い土地利用となる。しかし、駅前広場の交通処理に課題があり、評価は「○」となる。

- ・D案は、マンションなど大街区の土地利用に適している。しかし、1号踏切付近に交差点ができるため、交通処理に課題があり、評価は「▲」となる。
- ・4案から、B、C案の2案に整理した。

(2) 西側エリア検討会の報告について (3~4P)

【内容について】

- ・第21回検討会の際に、現場を見て話をしたいという提案をいただき、街歩きを行った。
- ・エリア別第1回検討会は、事業手法の提案（土地区画整理事業によらない手法）とまちづくりの将来像を共有した。
- ・エリア別第2回検討会は、街歩きと西側エリアにおける道路の考え方について説明した。

【街歩きについて】

- ・①2号踏切周辺道路、②主要生活道路2周辺道路、③鶴見川沿道、④大正橋～2号踏切までの4ルートとした。
- ・①～④番のルートを道路の幅を測りながら歩き、「通りやすさ」「安全性」「街並み」「緑の多さ」「景観・環境」「バリアフリー」という6つの項目で、4つのルートの評価した。
- ・「緑の多さ」は、どのルートにおいても比較的高い評価を得ている。
- ・「通りやすさ」「安全性」「バリアフリー」は、③鶴見川沿道以外のルートは、通りづらい、危険、悪いなどの評価が多かった。
- ・③河川管理用通路以外の道路については、道路の幅がせまいということもあり、「通りやすさ」や「安全性」については低い評価となっており、その評価に比例して、「バリアフリー」についても低い評価となった。自由意見についても、街の将来について、「道路幅員を6mでつなげるべき」という意見や「6m道路は実現まで相当な時間を要するため、4mがよい」といった意見もあった。

(3) 鶴川駅南口の交通環境について (6P-14P)

○これまでの検討会で頂いた主な意見について

【基本となる考え方1】

まず自動車の目的地を絞り、自動車交通をこれ以上増やさないようにする。

- ① 道路を整備することで、車は増えるが、南口を通過する車を呼び込まないようにするために、目的地を南口駅前広場に絞る。
- ② 南口で目的地に到着した車は転回して帰るルートをつくる（うろつき交通をなくす）
- ③ 川井田人道橋を拡幅し、南口駅前広場へのアクセスルートを整備する
- ④ 路線バスの南口駅前広場へのアクセスルートを整備する。（長期的）

【基本となる考え方2】

「歩きやすく」「安全」な歩行環境をつくる

- ① 自由通路の整備を進める（踏切の歩行者減少）
- ② 必要に応じた道路における歩車分離（歩道の整備）

【基本となる考え方3】

駅南口の賑わい空間を誘導していく。

○今後の南口街づくりにおける道路整備の方向性について

【自動車交通の誘導】

(短期：街づくりに合わせた道路整備)

駅前広場を中心に自動車の到着⇄帰還ルートと西側エリアの道路は生活交通に限定しつつ、防災機能を持つ道路を整備する。

(中期：駅アクセス道路の整備)

真光寺長津田線と新設の南口駅前広場を連絡する駅アクセス道路を検討する。

(長期：都市計画道路の整備)

川崎市の都市計画道路整備に合わせて駅前広場の連絡を検討する。

【歩行者交通の誘導】

(短期：街づくりに合わせた道路整備)

河川管理用通路の環境、自由通路、新たな歩行者空間、主要な道路の歩道を整備する。

(4) 住民意向調査(中間報告)について(15~21P)

- ・実施期間は、7月30日から継続中で、全体の55%のご意向が確認出来ている(9月14日現在)。
- ・建物がほしい、移転してもよい、道路に協力する・しない等も個別ヒアリングでしっかり聞かせていただく。まだ行っていない方は今日申込みを受け付ける。
- ・「鶴川駅南側街づくりビジョン」や「道路の基本的な考え方」は、概ねの理解が得られている。

(5) 駅利用者アンケート(中間報告)について説明をした。(22~29P)

- ・調査日時は6月30日8時~20時で、配布数3,200枚、回収数1,278枚、回収率約40%であった。
- ・「駅前広場の利便性・快適性の向上について何が必要か」という設問に対しては、「雨に濡れないで乗換えできる」が最も多く回答があった。
- ・「駅周辺の利便性・快適性の向上について不足している機能は何か」という設問に対しては、「駅の南北を結ぶ自由通路」が最も多く回答があった。
- ・「鶴川駅の利便性・快適性の向上に何が必要か」という設問に対しては、「エスカレーターの設置」が最も多く回答があった。
- ・「駅周辺に必要な施設は何か」という設問に対しては、「医療施設」が最も多く回答があった。

(6) まとめについて(30~32P)

鶴川駅南側街づくりビジョンを踏まえ、さらに交通環境の検討を重ねて、道路の基本的な考え方がまとまり、これを基本方針としている。幅員等の議論については、意向調査や個別ヒアリングも参考として検討していく。

2. 質疑応答・意見交換

(意見) 南口への車の流入はロータリーを目的地とすることを基本とするといっていたが、例えばどこを一方通行にするかなど具体的な考え方があるのか、それともビジョン的なものにすぎないのか。芝溝街道の渋滞解消を合わせて行うなどの具体的な施策があるのか。

(市の考え) 交通規制等の考え方は今後検討していく必要がある。また、芝溝街

道の交差点改良については、東京都のすいすいプランの工事が既に完了している。南口における交通環境の考え方は、自動車交通などの目的地を南口駅前広場に絞ることなどで交通を抑制することを検討している。また、通過交通増加による安全性については、歩道整備や自由通路の整備という形で対処できるのではないかと考えている。

- (意見) 南口駅前広場ができると、バスやタクシーは踏切から出入りしかないとと思う。
- (市の考え) そういう考え方もある。他にも、川崎市域からの南口駅前広場へのアクセスルート、例えば真光寺長津田線からのルートなどいくつかの案を川崎市と協議している。長期的には川崎市で予定している都市計画道路にアクセスできるようにしたい。
- (意見) 道路が整備されて交通量が増えれば、踏切がそのままの幅員であれば、現在よりも渋滞が悪化するのではないか。
- (市の考え) 現在の踏切は歩行者と車両が混雑しており、それも渋滞の要因の1つである。道路を歩車分離にすることや自由通路を整備することで歩行者導線が変化し、渋滞緩和の効果となると考えている。
- (意見) 東側エリアは全て商業地域にしてほしい。
- (市の考え) 商業利用となると、最低 9m の道路が必要となってくる。また、共同化の話もいただいているが、再開発で高度利用する場合は最低限 12m の道路が必要になる。そこまでの基盤をどこから持ってくるかも課題となる。
- (意見) 小田急は橋上駅にすることや、踏切の拡幅についてはどう考えているのか。
- (市の考え) 市で南北自由通路を検討しているので、駅舎の橋上化については働きかけている。また、踏切について同様である。
- (意見) 北のポプリホールのような公共用地は南側にはないのか。
- (市の考え) 南側では考えていない。市では今、公共施設は集約していく方向である。

3. その他

- ・ 次回はエリア別検討会で、日時は 12 月 12 日（土）
東側エリア検討会：13：00～、西側エリア：15：00～ である。

以上